

令和4年度

南伊豆地域ごみの減量化・リサイクル
を考えるワークショップ活動報告書

下田市・南伊豆町・松崎町・西伊豆町

令和4年度

南伊豆地域ごみの減量化・リサイクルを考えるワークショップ

目的

南伊豆地域（下田市、南伊豆町、松崎町及び西伊豆町）は、人口減少等に伴うごみ量の減少（施設稼働率の低下）や施設の老朽化といったごみ処理に関する共通の課題を抱えており、持続可能なごみ処理体制を継続していくため、1市3町の施設を集約化し、新たな施設で広域処理をすることを計画している。

今後のごみ処理には、ごみの減量化、資源化の推進が必要不可欠であり、これらを実現していくため、1市3町の住民、事業者及び行政が協力し、ごみの減量化や資源化の推進など、ごみ処理の各段階でできることを一緒に考え、地域全体で循環型社会の形成に取り組んでいくことを目的にワークショップを開催した。

開催日程

第1回：令和4年10月16日（日） 午後1時30分～午後4時30分

第2回：令和4年11月6日（日） 午後1時30分～午後4時30分

第3回：令和4年11月27日（日） 午後1時30分～午後4時30分

会場：南豆衛生プラント組合2階会議室（下田市敷根13-8）

内容

主な内容：ごみの減量化・リサイクルの推進施策、展開方法等の提案

※ワークショップ内で出た意見等は別添資料のとおり

参加者：1市3町の住民及び事業者、下田高校生徒、行政職員、有識者等

ファシリテーター：一般社団法人会議ファシリテーター普及協会 小野寺 郷子

有識者：一般社団法人静岡県環境資源協会

今後の展開

今回のワークショップで提案のあった施策案については、1市3町の構成市町へ報告し、各市町の考える今後のごみの減量化・リサイクルを推進するための施策へ反映できるかを検討するとともに、反映できるものは積極的に反映し、住民への周知も併せて行っていくものとする。

また、広域で実施すべき施策については、これまで以上に連携を強化し、効率的効果的な施策を展開していく。

分別

紙の箱は分解して
紙ごみにする

雑紙処理
統一化

窓あき封筒はため
ずにすぐ分解し紙
ごみにまとめる

分別推進チームを
つくる

集団回収

・イベントを行う
・中学校や小学校
でやる

再利用

いらない物で
小物をつくる

布を小さく切って
油をぬぐう

いらない物を交換
できる場所つくる

着なくなった服を
小学校等に売る

・いらない布や紙等
を各地区で交換で
きる場所をつくる
(有料無料)

生ごみ

生ごみ回収
システム

コンポスト
導入補助

バイオ処理施設を
つくる

庭に埋める

パッケージフリー

レジ袋は
マイバック

・マイ容器持参

量り売りのお店に容
器を持参して
パッケージフリーで
買い物をする

野菜や卵など生産
者から直接買って
パッケージフリーで
買い物をする

食品ロス

少量の買い物に
する(大量に買わ
ない)

冷蔵庫を使わな
い(少なくする)

食品ロス(残食)
を減らす

Aグループメンバー

杉山 安紀子 杉山 徳男
辻村 徳和 渡辺 ほんか
萩本 泰宏

食品ロス

品物は手前からとる

ご飯を作りすぎない、残さない

買いすぎないように満腹時に買い物に行く

自炊する

・食べ残しをリサイクルして食事をつくる

・飲食店で食べ残しをテイクアウト

やってみたいこと（理想）

分別収集を休日に設定し、子供も参加できる仕組み（教育）

リサイクルポイント

・子供たちが参加した場合には、ごほうびカードを作成し、活動を広める

いつでも出せるリサイクルステーションの設置

リサイクル

古着を譲る

友人や知人と情報交換し、互いに欲しいもの、いらぬものを交換

・ものの物々交換

気を付けて買う

ものを買う時はごみにならない物を買う

ごみ処理のことまで考えてものを買う

新しくものを買わない

容器を晴らす

買い物袋を使わない

・マイ容器を活用

紙を減らす

ペーパーレス化の推進

・新聞紙のリサイクル
↓
介護施設へ提供

資源化

落ち葉や木の枝はごみに出さずに堆肥化する

ダンボールコンポストの推進

Bグループメンバー

清水 高子 野田 祥子
小玉 裕貴 外岡 三郎

リユース

布は掃除に使う

着ない服は、知り合いにあげる

布類は切って他のものをつくる

使えるものは使ってもらえる場所をつくる(再利用)

ギフトエコノミーをやりたい

生ごみ

捨てる時にはしっかり水分をとる

生ごみはコンポストで処理をする

コンポストバッグの購入助成制度

コンポスト回収場をつくる(畑がない人用)

・生ごみを分別回収してほしい

・生ごみや野菜くずは堆肥化

買い物

必要な分、必要なものだけを買う(悩んだらやめる)

野菜販売時のビニール包装をやめる(量り売り)

農業資材は土にかえるものを使用する

・売る側に包装や素材について要望をする

要望

ごみの大半はプラスチックとビニールなので、全て再資源化したい

・再資源化を急いでほしい

・資源は燃やさず再利用

意識改革

地域のリーダー養成(分別回収)

分別がわからないものはセンターに持ち込む

・住民の意識を高める

リサイクル

紙類は一つに回収できる袋を用意する

・回収方法の工夫

Cグループメンバー

杉山 藍子 糸賀 ちや
山本 ひさ子 岩崎 和花
古郡 菜月

生ごみ

食品ロス
多く食事をつくら
ない、食べきる

食材の無駄をなく
すようなアイデア
レシピを開発する

生ごみの再生
『キエーロ』
堆肥化など

米のとぎ汁の有効
活用(床掃除、植
林へまく等)

生ごみのおい
を消す取り組み

素材の開発等

食品トレイの素材
を自然にかえる
ものにする

プラスチックごみ
の資源化先開拓

リサイクルしやす
いように素材を統
一化する

過剰な包装を
やめる

リサイクルしやす
いように素材を
統一化する

一時的に使うような
紙は、材質をおとす

布の削減

衣類はリサイクル
へ出す

洋服等の交換会

リサイクルできな
い布の有効活用

・油等を拭く布な
どへ有効活用

意識的行動

マイバックの持参

モチベーション
やる気の向上

生ごみの堆肥化
↓
食糧生産に
結びつける

企業努力

自動販売機の
必要性見直し

販売店は製品を
販売したら回収ま
で責任を負う

Dグループメンバー

伊藤 不二枝 長友 くに
渡辺 文彦 金指 朱音
井上 隆夫

生ごみの堆肥化

生ごみ処理機の積極的導入

ダンボールコンポストで堆肥化

焼却処分を削減するための食品ロス削減

生ごみ水切り(ビニール袋)

生ごみ・剪定枝などの堆肥化

政策

高齢や障害者への資源ごみ出しの手伝い

資源消費の差を指標計算

各市町で目標は金額で示す

再使用可能な物の交換センターを設置する

分別についての企業との連携

傷んだ布類の回収

分別の徹底

雑紙回収場所を増やす(スーパーやマンション等)

雑紙の分別を徹底してやる

使い捨てトレイや牛乳パックなどはスーパー等の回収ボックスへ捨てる

講座・教育

地域での出前講座を計画する

子供に対するごみ教育

ごみの発生抑制

割りばしやスプーンなどは断る

本当に必要なものか考えてから購入する

Eグループメンバー

土屋 洋子 漆田 修
木原 佐知子 大黒 愛子
土屋 ひかり 杉山 一弥

リサイクル・リユース

ポイント制度をつくりごみ減量を促進する

買いすぎた場合は、ダメになる前にフードバンクを利用する

レンタルやリースを活用する

長く使えるものを選ぶ

ごみを出さない

必要以上のものを買わない

ごみになるものを買わない

食品ロス対策

生ごみはコンポスト等を利用し、ごみを減らす

販売側の取り組み

量り売りを推進

環境にやさしい商品コーナーを作る

過剰包装をやめる

・販売する側がごみ減量の仕方を考える

仕分け・分別

こまめに分別する

ごみの仕分け方をわかりやすくなるよう工夫する

細かい仕分の必要性(メリット)をアピールする

観光客へのお願い

イベントなどで地域全体で統一しプラスチックを使わない

観光客にもリサイクルをお願いする

Aグループメンバー

渡辺 文彦 辻村 徳和
大黒 愛子 岩崎 和花
杉山 一弥

Aグループ タイトル

『自然が豊かで人々がつながり資源を大切にする街』

使い捨てを無くす

マイバック・マイボトル・マイ箸を使用する

詰め替えできるものを使う

・安物買いの銭失いをやめる

ごみを減らす

物を大切に使う

「キエーロ」で生ごみを減らす

残さずご飯を食べる(食品ロス)

パッケージフリー

ごみになるものを使わない

各家庭で野菜を育てる

ご近所で分け合う

再使用

着なくなった服等を他の人に着てもらう

くるくるショップフリーマーケット制服交換会など

メルカリを活用する

壊れたものは直して使う

みんなで取り組む

分別リーダーを地域毎に配置する

回覧版でごみの資源化情報等を提供する

紙・プラスチックの表示を大きくするよう企業に要請

再利用・資源化

古くなった布は掃除に使う

雑紙をいれやすい袋を用意し、入れてはダメなものは違う袋に

ごみ捨ての際には、ごみの分別をちゃんと考える

Bグループ タイトル

『世界から注目されるエコでつながる美しい南伊豆地域』

Bグループメンバー

木原 佐知子 山本 ひさ子
酒井 陸 古郡 菜月 杉山 一弥

食品ロス

賞味期限を
気にする

必要なものだけ買
う

空腹時に買い物
に行かない

子供に資源化の
知識を学んでもら
い親に教える

子供に言われると
効果的

物を大切に

物を大切に扱う
(手入や修理をし、
長く愛用する)

詰め替えが可能
なものを使う

外出時はマイボト
ルマイバックを
持参する

ごみは持ち帰る

家にある袋を
再利用

町の中のごみ箱を
なくす

費用

ごみの有料化
(重さで変化)

ものによりごみ袋
を分ける

売れるごみと売れ
ないごみを表示
(大崎町)

広報

雑紙回収のTVコ
マーシャルを流す
(ケーブルTV)

事業者に協力
してもらおう

自給自足

自給農
(食べ物は自分で
つくる)

Cグループメンバー

杉山 藍子 杉山 徳男 後藤 雅紀
外岡 三郎 井上 隆夫

Cグループ タイトル

『楽園 × シンプルライフ』



食品ロス

外出時は容器を持参し、
食べ残しは持ち帰る
(製造元の責任を問わない法整備必要)

冷蔵庫の使用を
控える、空にする
ように努力する

買いすぎない
つくりすぎない

つくりすぎたら
近所へ配る

生ごみのおい
を消す取り組み

ごみ減量化

なるべくパッケー
ジがない物を買う

マイ箸・未スプー
ンを持参する

包装は断る

シャンプーは詰め
替え用を使う

旅行の際には洗
面道具は持参

リサイクル

いらない服などは
雑巾などとして再
利用する

ティッシュペーパー
の使い過ぎを防ぐた
め、布のおしぼり
を使用

いらない人という
人の情報を交換

いらない服などは
バザー等に出す

生ごみ

生ごみを堆肥化す
る

生ごみのみ収集

燃えるゴミと生ご
み用の袋を分別
する

食品の無駄を省く

野菜の皮なども料
理して食べる
(情報共有)

野菜くずは
濡らさない

お茶殻、コーヒー
のかすは、乾燥さ
せる

Dグループメンバー

清水 高子 糸賀 ちや 黒須 善朗
渋谷 海琳 萩本 泰宏

Dグループ タイトル

1) 安心して皆が楽しい街

ポイント:『子供は宝』、移住したくなる♡

2) 自然を壊さない

日頃から取り組めること

必要以上に物を
買わない

残さず食べる

リサイクルできるもの
を買う

マイバック、マイ
カップ等を持つ

旅行の際には、家
から持参したもの
をつかう

冷蔵庫の整理

リサイクル

資源化することがお
金になることを目
に見える形にすること
が大事(上勝町)

紙なども破れてい
ても再生できないと思
わず回収に出すこと
が大事

PTAの資源回収
のようにする

地域でのコミュニケーション

近所で話題にで
きる関係が大事

ごみ出しのルールを
みんなが守る
(時間外にごみを出
す人多い)

Eグループメンバー

長友 くに 野田 祥子
木下 愛華 土屋 ひかり

Eグループ タイトル

日本一!水と緑と空気と人

マイ〇〇

マイボトル、マイはし、マイバック等を持ち歩く

水筒を持ち歩く

昼食を持参する

ペットボトル飲料は出さない

プラスチック容器を減らす

自動販売機の設置数を減らす

プラスチック容器入りのインスタント食品を買わない

ペットボトルは買わない

弁当を持参する

ごみの減量化

ごみ袋自体を小さくする

容器を捨てる際には、つぶして小さくして捨てる

食べ残しを持ち帰る

生ごみは畑に埋める

キエーロを普及させる

布は小さく切って汚れ拭きを使う

事業者への働きかけ

無駄な紙を出さない(SNS等活用)

ごみの原料を事業者へ働きかける

雑紙

雑紙は燃やさない

雑紙をとことんリサイクルする

その他意見

適正価格で販売
観光価格NG

地元の直売所を優先して利用する

地産地消

物であふれている生活を見直す

Fグループメンバー

土屋 洋子 伊藤 不二枝
小玉 裕貴 金指 朱音

Fグループ タイトル

自然もおしゃれも〇〇がいい!

第3回ごみの減量化・リサイクルを考えるワークショップ 各グループアイデア

テーマ	南伊豆地域のごみ減量化・リサイクルを展開するアイデア	投票欄	票数
グループ名 A班	渡辺文彦・辻村徳和・大黒愛子・岩崎和花・井上隆夫		
まとめ	① 地域の企業とコラボしたポイント制度 ・自分で持参した容器をつかって量り売りした人にポイント付与 ・住民だけでなく企業側にもポイント付与	●●●●●●●●	7
	② 古着をいつでも出せる場所をつくる ・魅力があって、たくさんの人に知ってもらえる場所	●●●●	4
	③ 生ごみの行政と住民によるコンポスト推進化 ・各家庭用のコンポストと地域のコンポスト	●●●●	4



テーマ	南伊豆地域のごみ減量化・リサイクルを展開するアイデア	投票欄	票数
グループ名 B班	漆田修・木原佐知子・山本ひさ子・酒井陸・古郡菜月		
まとめ	① インセンティブのあるエコ活動 インセンティブ=paypay等のポイント エコ活動=パッケージフリー(果物・飲食)→マイボトル等持参、ごみ分別	●●●●	4
	② リユースセンター(南伊豆Junkanショップ)の運営	●●●●	4
	③ ごみ等に関するイベントの実施 ・講演会、ゼロウェイストマーケット等を主に実施	●●●●●●	6



第3回ごみの減量化・リサイクルを考えるワークショップ 各グループアイデア

テーマ	南伊豆地域のごみ減量化・リサイクルを展開するアイデア	投票欄	票数
グループ名 C班	杉山藍子・杉山徳男・高橋愛唯・外岡三郎		
まとめ	① かわいく♡オソロdeおかいもの (☺) ・ロゴ、アイテム作成 (エコバック、マグ、ワッペン、シール等) =デザインを公募して投票で決定!	●●●●●	5
	② 五感で楽しむ・五感を信じる ~賞味期限はいないよね~	●●	2
	③ ごみ育・リサ育ル	●●	2



テーマ	南伊豆地域のごみ減量化・リサイクルを展開するアイデア	投票欄	票数
グループ名 D班	清水高子・黒須善朗・糸賀ちや・金指妃奈乃・萩本泰宏		
まとめ	① ごみ処理にかかる税金を減らして、 美しい自然作りのために使いたい。	●●●●●●	6
	② マイバックやマイボトル、マイ容器を持参。 ・商店に協力 (マイポイント制: お店を応援、消費者を応援)	●●●●	4
	③ わかりやすい広報 ・優しい言葉や簡単な表現で!	●●	2



第3回ごみの減量化・リサイクルを考えるワークショップ 各グループアイデア







テーマ		南伊豆地域のごみ減量化・リサイクルを展開するアイデア	投票欄	票数
グループ名	E班	長友くに、野田祥子、西田蒼永・杉山一弥・土屋ひかり		
まとめ	①	1市3町でごみ削減競争。 (ごみ減戦争)	●●●●●●●●	7
	②	再利用のための交換施設とその広報	●●●	3
	③	事業ごみを減らす工夫 (旅館、ホテル、飲食店)	●	1



テーマ		南伊豆地域のごみ減量化・リサイクルを展開するアイデア	投票欄	票数
グループ名	F班	杉山安紀子・土屋洋子・伊藤不二枝・小玉裕貴・金指朱音		
まとめ	①	未来を担う子どもたちへの環境教育を充実させる ・環境スペシャリストを育成する。	●●●●●	5
	②	オシャレな生ごみ回収容器を各家庭に配る →生ごみを堆肥化工場へ	●●●●	4
	③	地域に出向いて広報活動をする(行政と住民の共同) →情報共有の場をたくさんつくる。	●●	2



ごみの減量化・リサイクルを考えるワークショップで出た意見に対する対応状況
全体まとめ（1位～3位）

順位	グループ名	テーマ	
		南伊豆地域のごみ減量化・リサイクルを展開するアイデア	
 7票	A	地域の企業とコラボしたポイント制度 ・自分で持参した容器をつかって量り売りした人にポイント付与 ・住民だけでなく企業側にもポイント付与	
 7票	E	1市3町でごみ削減競争。 （ごみ減戦争）	
 6票	B	ごみ等に関するイベントの実施 ・講演会、ゼロウェイストマーケット等を主に実施	
 6票	D	ごみ処理にかかる税金を減らして、 美しい自然作りのために使いたい。	
 5票	C	かわいく♡オソロdeおかいもの(☺) ・ロゴ、アイテム作成（エコバック、マグ、ワッペン、シール等） =デザインを公募して投票で決定！	
 5票	F	未来を担う子どもたちへの環境教育を充実させる ・環境スペシャリストを育成する。	

全体まとめ（3位以下：投票数の多い順）

投票数	グループ名	テーマ	
		南伊豆地域のごみ減量化・リサイクルを展開するアイデア	
4票	A	古着をいつでも出せる場所をつくる ・魅力があって、たくさんの人に知ってもらえる場所	
4票	A	生ごみの行政と住民によるコンポスト推進化 ・各家庭用のコンポストと地域のコンポスト	
4票	B	<u>インセンティブのあるエコ活動</u> インセンティブ=paypay等のポイント エコ活動=パッケージフリー（果物・飲食）→マイボトル等持参、ごみ分別	
4票	B	リユースセンター（南伊豆Junkanショップ）の運営	
4票	D	マイバックやマイボトル、マイ容器を持参。 ・商店に協力（マイポイント制：お店を応援、消費者を応援）	
4票	F	オシャレな生ごみ回収容器を各家庭に配る →生ごみを堆肥化工場へ	
3票	E	再利用のための交換施設とその広報	

全体まとめ（3位以下：投票数の多い順）

投票数	グループ名	テーマ	
		南伊豆地域のごみ減量化・リサイクルを展開するアイデア	
2票	C	五感で楽しむ・五感を信じる ～賞味期限はいらないよね～	
2票	C	ごみ育・リサ育ル	
2票	D	わかりやすい広報 ・優しい言葉や簡単な表現で!	
2票	F	地域に出向いて広報活動をする（行政と住民の共同） →情報共有の場をたくさんつくる。	

南伊豆地域のごみの減量化・ リサイクルを考えるワークショップ

南伊豆地域広域ごみ処理事業
ワークショップ通信 No.1
2022.10.16(日)開催

南伊豆地域(下田市及び南伊豆町、松崎町、西伊豆町)は、人口減少等に伴うごみ量の減少(施設稼働率の低下)や施設の老朽化といったごみ処理に関する共通の課題を抱えています。

持続可能なごみ処理体制を継続していくため、1市3町のごみ処理施設を集約化し、新たな施設で広域処理をすることを計画しています。

今後のごみ処理には、ごみの減量化、資源化の推進が必要不可欠であり、これらを実現していくため、1市3町の住民、事業者及び行政が協力し、ごみの減量化や資源化の推進など、ごみ処理の各段階でできることを一緒に考え、地域全体で循環型社会の形成に取り組んでいく必要があります。

今回は、前回(3月6日開催)のキックオフで行われたワークショップからの継続となり、前回参加者に加え1市3町からの一般公募者も新たに加わり、ごみの減量化・リサイクルを考えるワークショップ(第1回)を開催しました。

第1回ワークショップを開催



第1回ワークショップは、一般公募で集まった1市3町の住民の方や下田市内の事業者の方、下田高校の生徒、先生、1市3町の行政職員、有識者など計25名にご参加いただきました。

参加者を5グループに分け、一般社団法人会議ファシリテーター普及協会の小野寺郷子(おのでら さとこ)さんの進行で行われました。

ワークショップの様子

ごみの分別ゲームからスタートし、1市3町の状況などの情報提供をしたのち、それぞれの立場から「ごみの減量やリサイクル」について、気になること、頑張っていること、現在、取り組んでいることなどの意見交換をし、グループ内での意見を3案に絞り、グループごとに発表をしていただきました。



Aグループの意見交換の様子



Cグループの意見交換の様子



Eグループの意見交換の様子



Bグループの発表の様子



Dグループの発表の様子

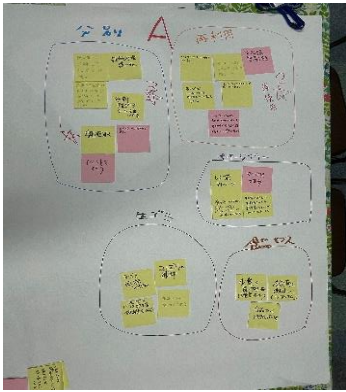
グループごとに活発な意見交換が行われ、意見を項目ごとにまとめ、発表を行いました。

出た意見は
次ページ



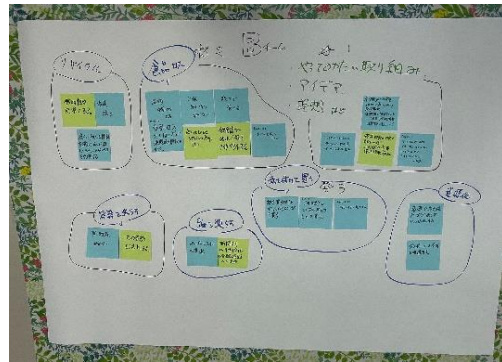
各グループから出た意見

Aグループ



- ・集団回収の推進
- ・分別を推進するチームをつくる。
- ・衣類などの再利用の検討
- ・生ごみバイオ処理施設の建設
- ・量り売りや直接買うなどでパッケージフリーとする。

Bグループ



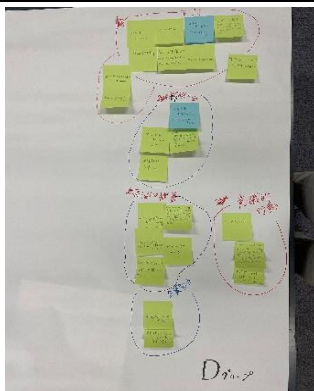
- ・月2回の分別の日に子供も一緒に連れていき、分別について意識づけをする。
- ・多く作りすぎない、残さず食べる。
- ・商品を購入する際に、ごみにならないものを買う。
- ・ダンボールコンポストの推進
- ・古着などを欲しい人へ販売したり交換したりする。

Cグループ



- ・資源は燃やさず再利用
- ・生ごみはコンポストへ投入
- ・古着の再利用、再使用
- ・食材は必要な分だけ買う。
- ・販売時の容器包装などはやめ、量り売りなどを推進
- ・地域のリーダー養成

Dグループ



- ・食材全てを食べられるようなアイデアやレシピの開発
- ・生ごみの再生「キエーロ」
- ・古着のリサイクル
- ・再利用できない布の有効活用
- ・意識改革の推進
- ・容器包装は自然にもどるものを使う

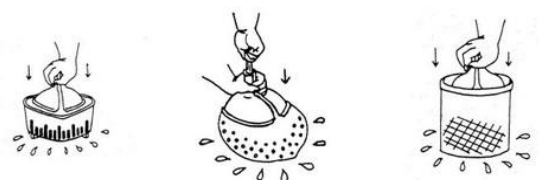
Eグループ



- ・生ごみの堆肥化
- ・再利用が可能な交換センターの設置
- ・地域で出前講座(子供も参加)
- ・必要なものか考えて買う
- ・容器包装の分別徹底

生ごみの水切りモニター調査

家庭ごみから排出されるごみのうち、生ごみは2割～3割の割合で排出されており、そこを減量化することでごみ全体量の減少につながるため、まずは、生ごみに的を絞って、実際に参加者にモニター調査として水切り用の器具を配布し、どれだけ効果があるのかの検証を行い、その結果を公表していきたいと考えています。



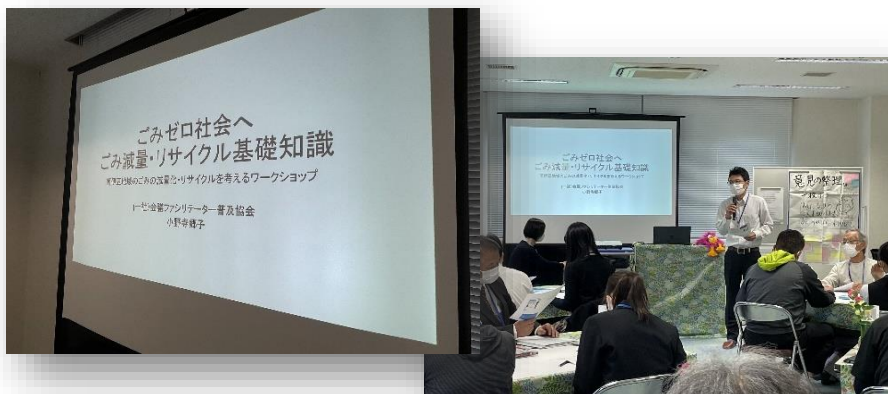
生ごみの水切り方法

南伊豆地域のごみの減量化・ リサイクルを考えるワークショップ

南伊豆地域広域ごみ処理事業
ワークショップ通信 No.2
2022.11.06(日)開催

第2回ワークショップを開催しました。

第2回ワークショップを11月6日(日)に開催しました。今回は、下田高校の生徒の参加人数を増やしていただいたため、前回とは、グループ編成も新たに、A~Fまでの6グループにより、ワークショップを開催しました。



小野寺先生から『ゼロ・ウェイスト』の情報提供や参加者からの先進地視察に行った際の状況報告や量り売り店の紹介、静岡県資源協会様からの県内事例紹介などさまざまな情報が共有されました。

ワークショップの様子

今回は、第1回で皆さんから出た意見も参考に、参加者それぞれの立場から、

- ①みんなが取り組めるごみの減量とリサイクルの方法を考える。
 - ②30年後の理想の故郷像をイメージして、言葉にする。
- を題材にし、活発な意見交換を行いました。



Aグループの意見交換の様子



Cグループの意見交換の様子



Dグループの意見交換の様子



Bグループの発表の様子



Eグループの発表の様子

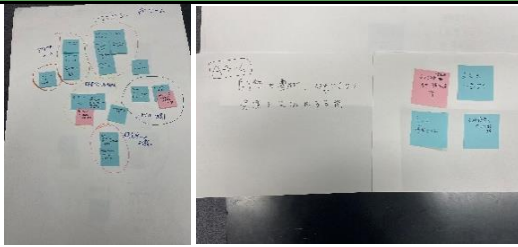


Fグループの発表の様子

意見交換した内容をまとめ、30年後の理想の故郷像を皆で考えました。
内容は裏面 ↓

各グループから出た意見(30年後の理想の故郷像)

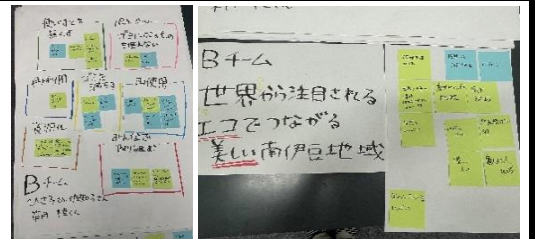
Aグループ



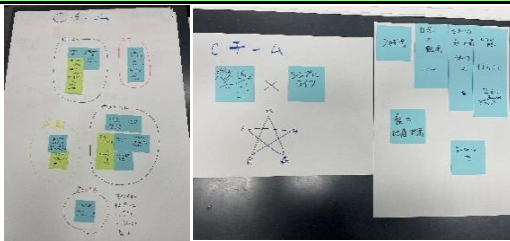
自然が豊かで人々がつながり
資源を大切にする街

Bグループ

世界から注目されるエコで
つながる美しい南伊豆地域



Cグループ

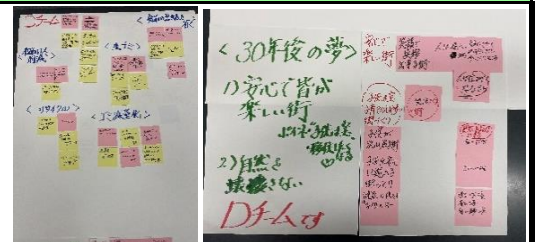


楽園
×
シンプルライフ

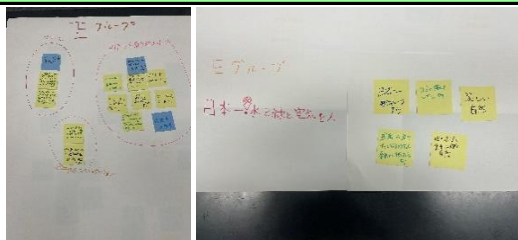


Dグループ

- 1 安心して皆が楽しい街
 - 2 自然を壊さない
- ポイント: 子供は宝、移住したくなる



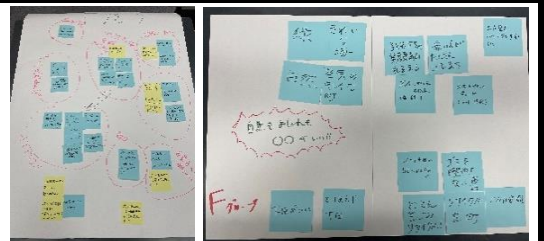
Eグループ



日本一!水と緑と空気と人

Fグループ

自然もおしゃれも〇〇がいい!!



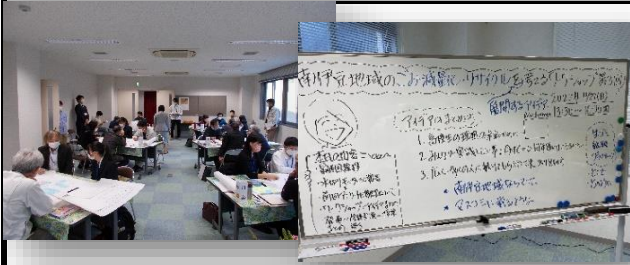
次回は、各グループの『30年後の理想の故郷』の実現に向けた、具体的な減量やリサイクルの方法や、みんなで取り組むための啓発方法を企画します!今後のごみの減量化・リサイクルにつなげるための第1歩となる提案をしていきます。

南伊豆地域のごみの減量化・リサイクルを考えるワークショップ

南伊豆地域広域ごみ処理事業
ワークショップ通信 No.3
2022.11.27(日)開催

第3回ワークショップを開催しました。

第3回ワークショップを11月27日(日)に開催しました。今回は、最終回のワークショップとなり、第2回で出た意見をたたき台として、各グループで南伊豆地域のごみ減量化・リサイクルを展開するアイデアを第1候補から第3候補まで考え発表し、最後に全員で投票を行いました。



各市町の現在の取り組み状況や静岡県環境資源協会様からの先進事例の情報提供の紹介などを行った後、ファシリテーターである小野寺郷子先生からアイデアのまとめ方の説明した後、グループごとに活発な意見交換が行われました。

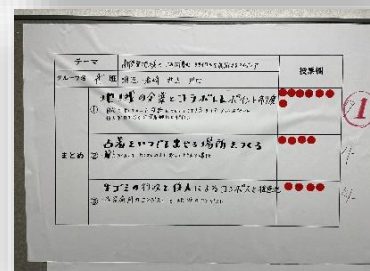
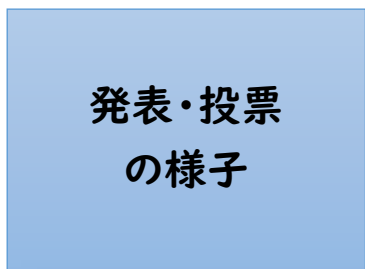
ワークショップの様子

今回は、第2回で参加者から出た意見をたたき台として、具体的な減量化・リサイクルのアイデアを3つにまとめ、発表しました。

★南伊豆地域ならではの、マスコミに取り上げられるようなもので、

- 1 高校生の理想の未来のために
- 2 みんなで実践したい事：今すぐ→何年後の未来像
- 3 広く多くの人に続けてもらえる工夫や取り組み方

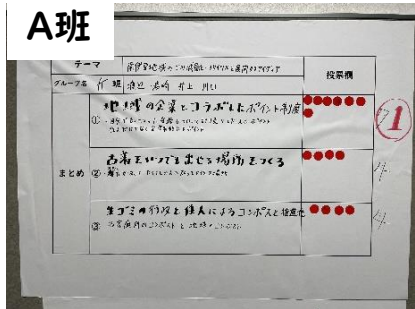
発表・投票の様子



発表をしたのち、1人3枚のシールにより、自分のグループ以外のグループの良いと思った提案にシールを貼り投票を行いました。各グループの意見及び投票結果は ↓

各グループから出た提案と投票結果

A班



- ① **地域の企業とコラボしたポイント制度**
・持参した容器を使って量り売りした人にポイント付与
・住民だけでなく企業側にもポイント付与
- ② **古着をいつでも出せる場所をつくる。**
・魅力があって、たくさんの人に知ってもらえる場所
- ③ **生ごみの行政と住民によるコンポストと推進化**
・家庭用のコンポストと地域のコンポスト



インセンティブのあるエコ活動

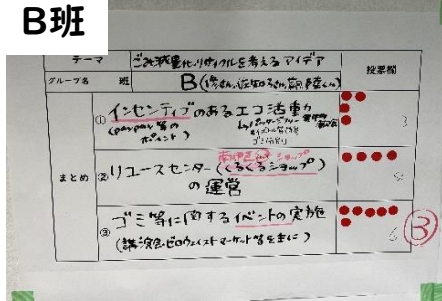
- ① (paypay等のポイント制度) パッケージフリー：果物・飲食
マイボトル等の持参、ごみ分別

- ② リユースセンター（南伊豆Junkanショップ）の運営

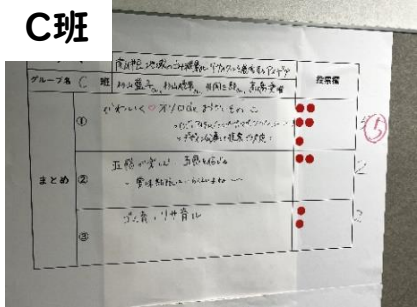
- ③ **ごみ等に関するイベントの実施**
・講演会やゼロウェイストマーケット等を主に開催)



B班



C班



- ① **かわいく♡オソロdeおかいもの♡**
・ロゴ、アイテム(エコバック、マグ、ワッペン、シール等)
→デザインを公募して投票で決定する
- ② **五感で楽しむ 五感を信じる**
～賞味期限はいらないよね～
- ③ **ごみ育・リサユル**



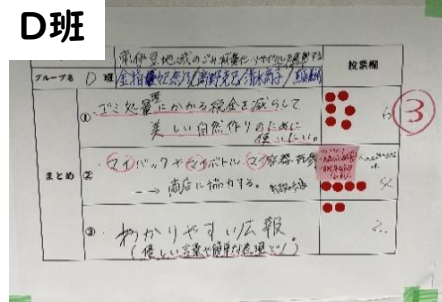
- ① **ごみ処理にかかる税金を減らして**
美しい自然づくりのために使いたい

- ② **マイバックやマイボトル、マイ容器を持参。→ 商店に協力**
・マイポイントで還元：お店を応援、買物客を応援

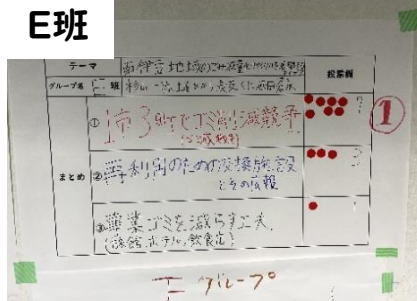
- ③ **わかりやすい広報(優しい言葉や簡単な表現で!)**



D班



E班



- ① **1市3町でゴミ削減競争!**
- ② **再利用のための交換施設とその広報**
- ③ **事業ごみを減らす工夫(旅館、ホテル、飲食店)**



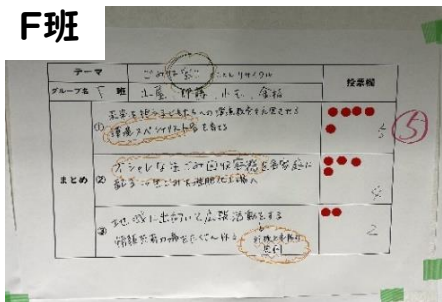
- ① **未来を担う子供たちへの環境教育を充実させる。**
・環境のスペシャリストの育成

- ② **オシャレな生ごみ回収容器を各家庭に配布**
→生ごみを堆肥化工場へ

- ③ **地域に出向いて広報活動をする。→行政と住民の共同**
・情報共有の場をたくさんつくる



F班



今回、提案された施策は、今後市町へ報告するとともに今後検討するごみ減量化・リサイクルの推進施策の参考とさせていただきます。